

5. 再開発事業

(1) 再開発検討の背景

本院は平成5年に中之島から現在の場所に全面移転してきた。移転後から今日まで医療ニーズは大きく変化してきたが、移転当初の病院構造のままとなっているため、時代のニーズに合わなくなってきた。狭隘化は顕著であり、移転時には想定していなかった大幅な医療スタッフ増により休憩室・当直室等のスタッフスペースが不足し、職員は非常に厳しい環境下で医療に従事している。診療スペースの不足も深刻な状況にあり、限られたスペースで院内改修を繰り返し医療の変化に対応してきたが、その工夫も限界に達している。また、全面移転してきたことにより、建物内部の配管等の劣化が外来・中央診療棟、病棟と同時に進んできている状況にある。

そのような中、超高齢化社会を迎える将来は更に医療ニーズが変化していくことが予測され、本院は高度急性期病院としての役割、臨床研究中核病院としての役割、拠点病院（地域災害拠点、地域がん拠点等）としての役割を担っていく必要があることから、新しく病院を創りかえていく必要があるため、再開発の検討を開始した。

(2) 検討経緯

（平成25年度）

院内に再開発委員会、事務組織として再開発企画整備室を立ち上げ、検討を開始した。

再開発委員会を3回開催し、再開発スケジュール、敷地利用計画案、債務償還計画の検討を行った。

（平成26年度）

・再開発に係るコンセプト及び将来構想の検討

具体的な再開発計画を策定していくためには、「診療、教育、研究、地域貢献・社会貢献、国際化、運営」の観点で本院の将来構想を策定する必要があること、また将来構想を踏まえてどのようなコンセプトのもと再開発計画を策定していくのかを検討する必要があることから、再開発委員会の下に、「再開発に係るコンセプト策定WG」を立ち上げた。当該WGは26年度に8回の開催を重ね、将来構想については、概ね策定が完了した。

・創立100周年世界適塾構想会議病院構想WG

学内で立ち上がった「創立100周年世界適塾構想会議」の下に「病院構想WG」が立ち上がり、医病・歯病両病院の再開発計画を踏まえた病院の将来構想について、移転の可能性、医病・歯病統合の可能性、両病院の将来構想等について、理事、副学長、理事補

佐等を交えて議論をおこなった。当該WGは26年度に7回の開催を重ね、病院構想WGの提言書をまとめあげた。

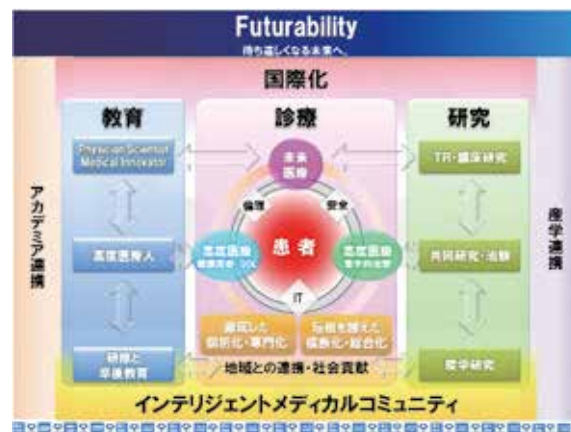
他の立地への移転の可能性については、医療圏の問題、医学部との関係、資金計画の観点から、困難な状況にあるとの結論に達し、今回の再開発については、平成5年移転時の整備計画書を踏襲し、移転計画時に設定した将来の拡張スペースを念頭に検討を進めることとした。医病・歯病統合の可能性については、両病院が有機的に連携することとし、現状の立地条件下で、両病院の機能を高めていくこととした。

・劣化診断調査

再開発計画を策定していくうえでは、現在の建物劣化具合を正確に把握する必要があることから、外部委託を行い下半期で電気設備、機械設備、配管等の劣化診断調査を実施した。

（平成27年度）

再開発に係るコンセプト策定WGで前年度に引き続き再開発のコンセプトについて議論を行い、「Futurability 待ち遠しくなる未来へ。」をコンセプトとして掲げることとした。また、診療、教育、研究、社会貢献・地域連携、国際化、運営の6本の観点で将来構想をまとめあげた。（下図参照）



再開発マスタープランとして、全棟建替え計画4案、既存棟大規模改修を含めた計画4案の計8案を、再開発委員会の下、「Q:クオリティ」「S:サービス」「C:コスト」「D:デリバリー」の観点から評価をした。その中から、全棟建替え計画1案、既存棟大規模改修を含めた計画1案の計2案で比較検証を行いながら基本計画の策定を進めていくこととした。併せて、モノレール脇窪地の有効利用について調査検討を行い、再開発に伴う駐車場整備計画を策定した。

（平成28年度）

大阪府の将来の人口動態・傷病別推移等を踏まえ

た将来の医療活動規模、想定される医療ニーズについてのヒアリングを院内全部門に対し実施したうえで、病院長・副病院長・病院長補佐からなる再開発コアWGを設置し、再開発基本計画（病院規模、各部門規模、各フロアの構成、部門動線、機能強化部門）の骨格を策定した。

再開発計画の概要（将来構想・コンセプト、敷地利用計画、資金計画・スケジュール）について、経営協議会に諮り了承を得た。

（平成 29 年度）

これまでに策定した再開発基本構想・基本計画に基づき、各部門にヒアリングを行い、部門別の基本計画を策定した。

（平成 30 年度）

新たに病院長を長とする「基本設計コアWG」を設置し、基本設計の策定を進めた。

これまで改修案と改築案の両案で比較検討していたが、「改築案」にて再開発計画を進めることとし、新棟の名称を「統合診療棟」に決定した。

また、各部門への基本設計ヒアリングを開始した。

(3) 敷地利用計画案

現外来・中診棟北側の平面駐車場及び立体駐車場部分に統合診療棟を配置し、現外来・中診棟（東）を将来病棟建設用地とする。（図 1）

(4) 再開発全体スケジュール

統合診療棟は令和 2 年度に着工し、令和 7 年度から稼働予定である。また、新病棟の整備時期に関しては収支状況等を踏まえて今後検討していく。（図 2）

(5) 今後の予定

令和元年度：基本設計、令和 2 年度概算要求

令和 2 年度：実施設計、統合診療棟着工

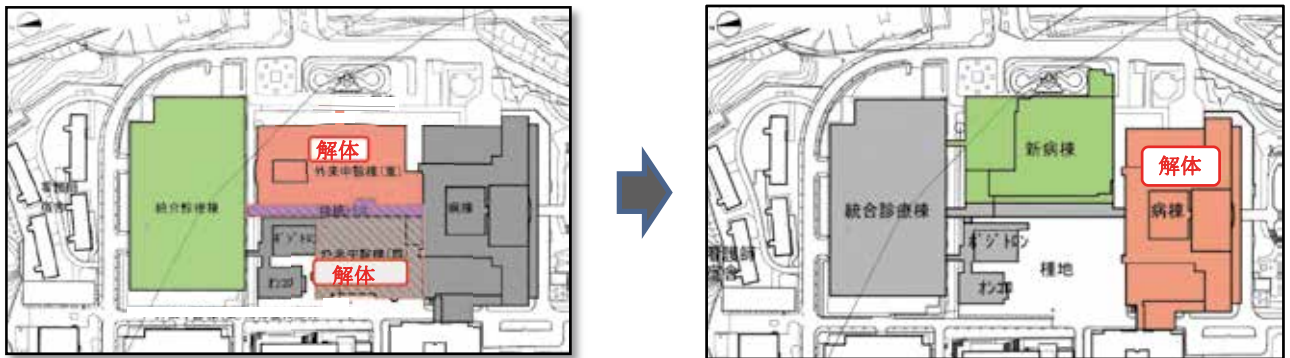


図 1：敷地利用計画案

平成30年度	令和元年	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度
2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度
26.6	26.7	26.8	26.9	27.0	27.1	27.2	27.3	27.4	27.5	27.6	27.7	27.8	27.9	28.0	28.1
●統合診療棟												●新病棟			
基本設計		実施設計	建設工事				建設工事								
						移転								完成	
						既存検査室、検体入込棟								既存病棟及び 外来・中診棟（東側）解体	

図 2：再開発全体スケジュール